

C. BECHSTEIN

# ショパンからドビュッシーへ ～受けつがれるもの、ピアノで描くその色彩～

ドビュッシーに直接教えを受けたピアニスト マルグリット・ロンは、その著書のなかで何度もドビュッシーとショパンについて触れています。

ことショパンに話が及ぶと、ドビュッシーは尽きることなく語りはじめると。  
それはまるで演奏を通じてショパンの心が骨の髄まで沁み渡り、ショパンに取り憑かれているようだったと。

ショパンの魂を受けついだドビュッシーの音楽とは、そして、ドビュッシーの音楽に垣間見るショパンとは。  
2人の偉大な作曲家の音楽をピアノという楽器を使ってひも解いていきましょう。

2016年 **8月16日**(火) 開演 19:00 (開場 18:30)

会場 汐留ベビシュタイン・サロン

《演奏曲(予定)》

ドビュッシー：前奏曲集 第1集より 第7曲 西風の見たもの  
前奏曲集 第2集より 第8曲 オンディーヌ  
ピアノのために より 第2曲 サラバンド

入場料 サロン会員 1,000円  
一般 1,500円

ショパン：練習曲集Op.25より 第1番 変イ長調「エオリアンハーブ」  
バラード 第3番 変イ長調

ほか



... The interpretations are aristocratic and poetic, yet strong enough to encompass the big moments of the true romantic tradition as represented by such pianists of the past as Joseph Lhevinne. Very few pianists of our time have this kind of elegance and taste Ms. Bonneau has...  
Harold Schonberg New York Times music critic

その演奏は上品で詩的、それでいて、ヨゼフ・レヴィーンのような過去のピアニストたちが代表する真のロマン主義の伝統を彷彿とさせる力強さがあった。現代のピアニストにはボンヌカーズ文史の持つような気品や味を持った者はとても少ない。  
—ハロルド・ショーンベルグ、New York Times 音楽批評家

... Veronique Bonneau gives this feeling of obviousness, prerogative of the best; she is one of them, without a doubt.  
PIANISTE Magazine

ヴェロニク・ボンヌカーズは最高峰の演奏家のみが与えうる、明白な印象を我々に与えてくれる。彼女は間違いなく、そのうちのひとりだ。  
—PIANISTE Magazine

... Ms. Bonneau's artistry is impressive. She unleashes an impressive amount of energy sourced in a deep knowledge of the big picture to bring forward the music and nothing else.  
Alain Lompech music critic with Le Monde and Diapason

ボンヌカーズ文史の芸術性は印象的である。彼女は曲の全体像をつかみとる深い知識を源とする莫大なエネルギーを解放し、ただ音楽のみを推進させるのだ。  
—アラン・ロンベッシュ、ル・モンド、ディアパゾン

お問い合わせ・お申し込み

汐留ベビシュタイン・サロン

東京都港区東新橋2-18-2 グラディート汐留ピアノコ1F

TEL: 03-6432-4080

MAIL: salon@euro-piano.co.jp